

新半田病院の建設予定地について

半田市長 神原純夫

記念すべき半田市制80周年である本年も、余すところ1か月となりました。「第八回はんだ山車まつり」では、本市の誇る31輛の山車が見事に集結し、前回を上回る55万人の方々に大きな興奮と深い感動を味わっていただくことができました。これも市民の皆様の方が結集してのことと、心よりお礼を申し上げます。

さて、すでに新聞等で報道がされており、半田病院の新病院建設予定地について改めて説明をさせていただきます。現在の半田病院は施設の老朽化と狭隘化、建物の一部が耐震強度不足であるという問題を抱えており、今後発生が懸念される南海トラフ巨大地震のことを考えますと、新病院の建設は最優先に取り組まなければならぬ喫緊の課題であります。

新病院の建設予定地については、有識者や市民代表で構成された「半田病院あり方検討委員会」を始め、2年の歳月をかけて行ってきた議論を尊重しつつ、早期建設の実現性、利便性、災害時のリスク、建設コストを含めた病院経営の観点等を踏まえ、総合的に現在の市職員駐車場が適地であると考えてまいりました。市民の皆様の中には、災害時の浸水や液状化のリスクが低い高台への移転を望む声も多いことから、市政懇談会や市報等を通じて、市職員駐車場に新病院を建設する妥当性を私なりに丁寧に説明し、多くの方々にご理解をいただけた感触も得ておりました。

しかし一方で、新病院を市職員駐車場に建設することに反対の方からは、半田病院の移転新築予

定地を問う住民投票を実施するよう10,662人の署名をもって、地方自治法に基づく条例制定の請求がありました。こうした市を二分しかねない状況が生まれつつあるなかで、大村愛知県知事から、「住民投票を実施することによる感情的な対立やしこり、無用な混乱を避けるために半田運動公園東側地域等の新たな適地を早急に検討したらどうか。」との助言を受けました。この助言について知事は、「県としても、知多半島で唯一、第3次救急医療施設に指定している半田病院は、県民の命を守る重要な施設である。県は、大規模災害時にヘリコプターで重症患者を搬送する拠点に半田運動公園を位置付ける考えがあり、搬送拠点と半田病院が隣接すれば大きな意味を持つことから、半田運動公園東側地域を一例として挙げ

た。」とおっしゃいました。市職員駐車場を新病院建設予定地としたことに対して、これまでたいへん多くの方々にご理解とご支援をいただいておりますので、本当に苦しい決断ではありますが、知事の助言を反故にすることは、半田病院を含めた市への影響、県との信頼性が毀損されることにもつながるとの思いから、私は知事の助言を重く受け止め、いったん立ち止まり、新病院の建設予定地を考え直すことにいたしました。

半田病院の移転新築予定地を問う住民投票条例案は市議会会で否決され、これより新たな建設候補地を絞り込んでまいります。基本的な考え方はこれまでと変わりません。早期建設の実現性や建設コストの低減、交通アクセスを始めとする周辺のインフラ整備について早急に検討し、平成30年3月までに新病院の建設予定地を選定したいと考えております。

なにとぞ、市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。